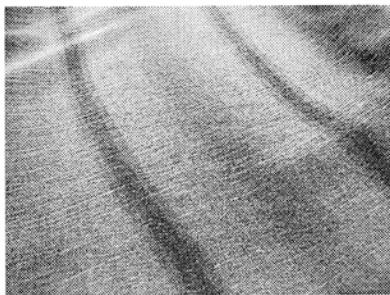


大正紡績

# 1本が7色に変化

## かすり糸「レインボー」開発

大正紡績はこのほど、1はなく、独自の精紡工程と本の糸が7色に変化するカ燃糸工程を組み合わせることで実現した革新かすり糸「レインボー」を開発した。通常の力織り・編み組織によって様々な柄や色彩が可能になることか



織り・編み組織によって様々な色柄が表現できる(写真は、レインボーを使った織物)

ら「デザイン」のクリエーティブな感性を刺激する糸」(野田和之(社長)と期待を寄せ

る。レインボーは、1本の糸が2、10日間隔で7色に変化する。カセ染め糸と異なり、色変化のピッチを自由に制御することが可能だ。原綿には、スーピマ綿を使用しているため、糸強さも通常のコマ糸の15%増して、光沢にも優れる。今回、商品化したのは20番から30番手の単糸とダブル糸。濃色系4品種、淡色系4品種の計8種類をラインアップする。織り糸、ニット糸両方で展開し、一部は07秋冬向けとして先行投入し、08春夏向けから本格販売となる予定だ。

野田社長は「独特のグラデーションが表現できるうえ、他の糸と組み合わせると引きさらや意匠燃糸すること、様々な色・柄のパリエーションが可能になる」と話す。すでにレインボーを用いて、馬淵織維がホールゲームント横編み、渡邊パイル織物がタオル、中野メリヤス工業が丸編み地、ヤマヤが靴下、シャンブレーと高澤織物が織物で、それぞれサンプル製作を行っている。これら素材は、12月の「JFWジャパン・クリエーション」でも披露する。

今回のレインボー開発で、大正紡績が扱う糸系は「カラー全糸」「ハニ染め(彩土染め糸)」「花染め(草木染め糸)」「ベンガラ染め」と合わせて5種類となる。

また、海外向けはとくにスポーツ用品を主体にアジアでの拡大を見込む。重点商品はニュー・エコマジックになる。